

看護師養成所における 教育内容と方法に係る調査結果

- ・第4次カリキュラム改正の評価
- ・実習に関する課題
- ・シミュレーション教育の実施状況

調査①（看護基礎教育の実態について）

「看護師養成所における看護基礎教育に関する調査」

－平成27年度 厚生労働省 看護職員確保対策特別事業

－調査実施者：一般社団法人日本看護学校協議会

○対象：全国の看護師養成所の教務に関する主任者 もしくは それに準ずる者

○方法：無記名自記式質問紙による郵送調査

○期間：平成28年1月～2月

○調査内容：看護基礎教育の実態について

○回答状況：544課程（75.3%）より回答

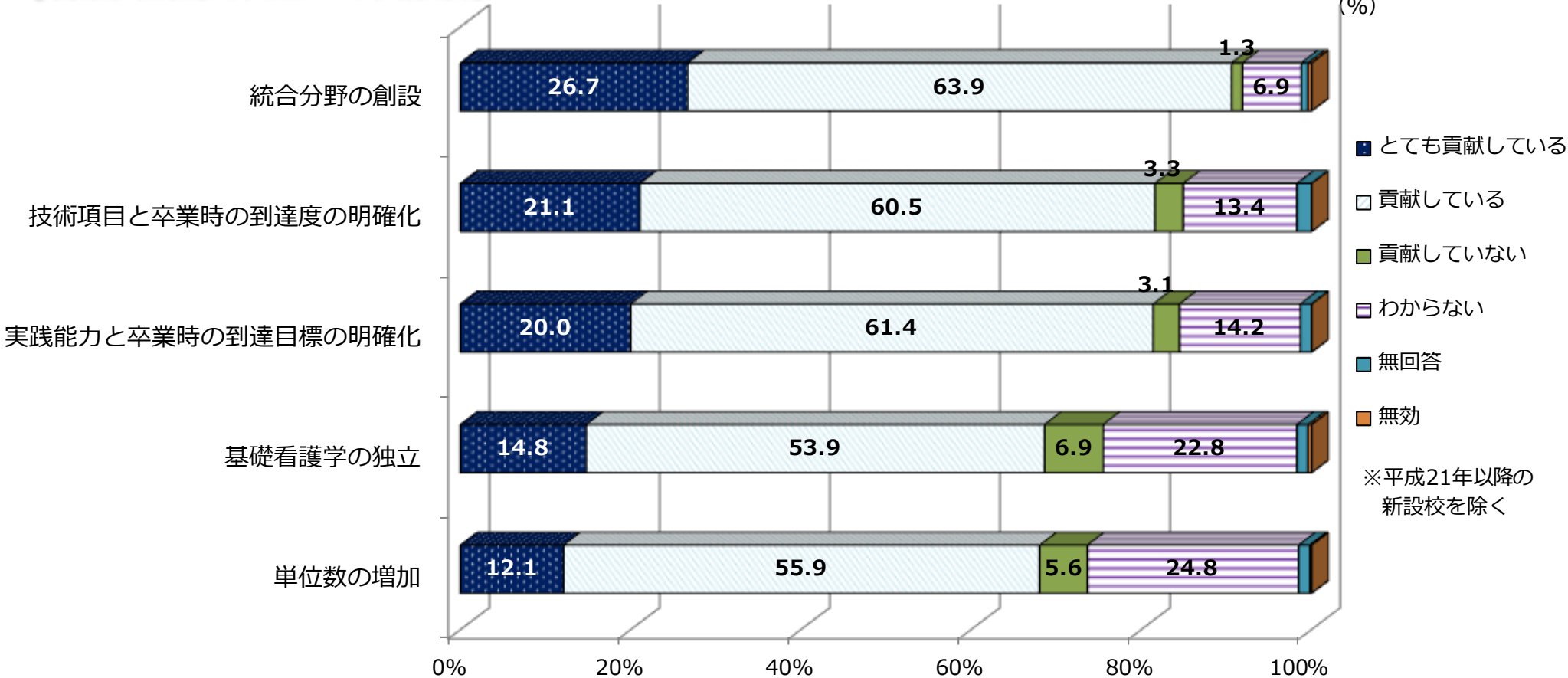
課程	配布数	回収数	回収率
統合カリキュラム	14	8	57.1%
3年（全日制）	529	391	73.9%
3年（定時制）	10	4	66.7%
2年（全日制）	54	27	72.2%
2年（定時制）	101	88	87.1%
2年（通信制）	18	56	77.8%
合計	722	544	75.3%

平成20年保健師助産師看護師学校養成所指定規則 (第4次カリキュラム) 改正の評価

○看護実践能力向上への貢献度は、どの改正項目においても「とても貢献している」「貢献している」と回答した看護師養成所が全体の6割を超え、項目別では「統合分野の創設(90.6%)」「技術項目と卒業時の到達度の明確化(81.6%)」「実践能力と卒業時の到達目標の明確化(81.4%)」の順となった。

【看護実践能力向上への貢献度】

n= 479
(%)



平成20年保健師助産師看護師学校養成所指定規則 (第4次カリキュラム) 改正の評価

○卒業時の看護実践能力向上の視点からみた第4次カリキュラム改正の評価について、「とても向上した」「向上した」と回答した看護師養成所の割合は約4割であった。

【第四次カリキュラム改正後の学生の「卒業時の看護実践能力」の変化】

	件数	割合 (%)	割合 (%)
とても向上した	5	1.1	36.4
向上した	165	35.3	
変わらない	175	37.5	37.5
低下した	38	8.1	8.1
とても低下した	0	0.0	
わからない	84	18.0	18.0
全体	467	100.0	100.0

※平成21年以降の新設校を除く ※無回答・無効を除く

【卒業時の看護実践能力についての自由記載（抜粋）】

〈統合分野の創設について〉

- ・看護管理や医療安全を学ぶことは意義が大きい。
- ・病院・病棟・チームの一員としての意識を持った上での技術、実践力向上を目指した体験がとても効果的だった。

〈看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標の明確化について〉

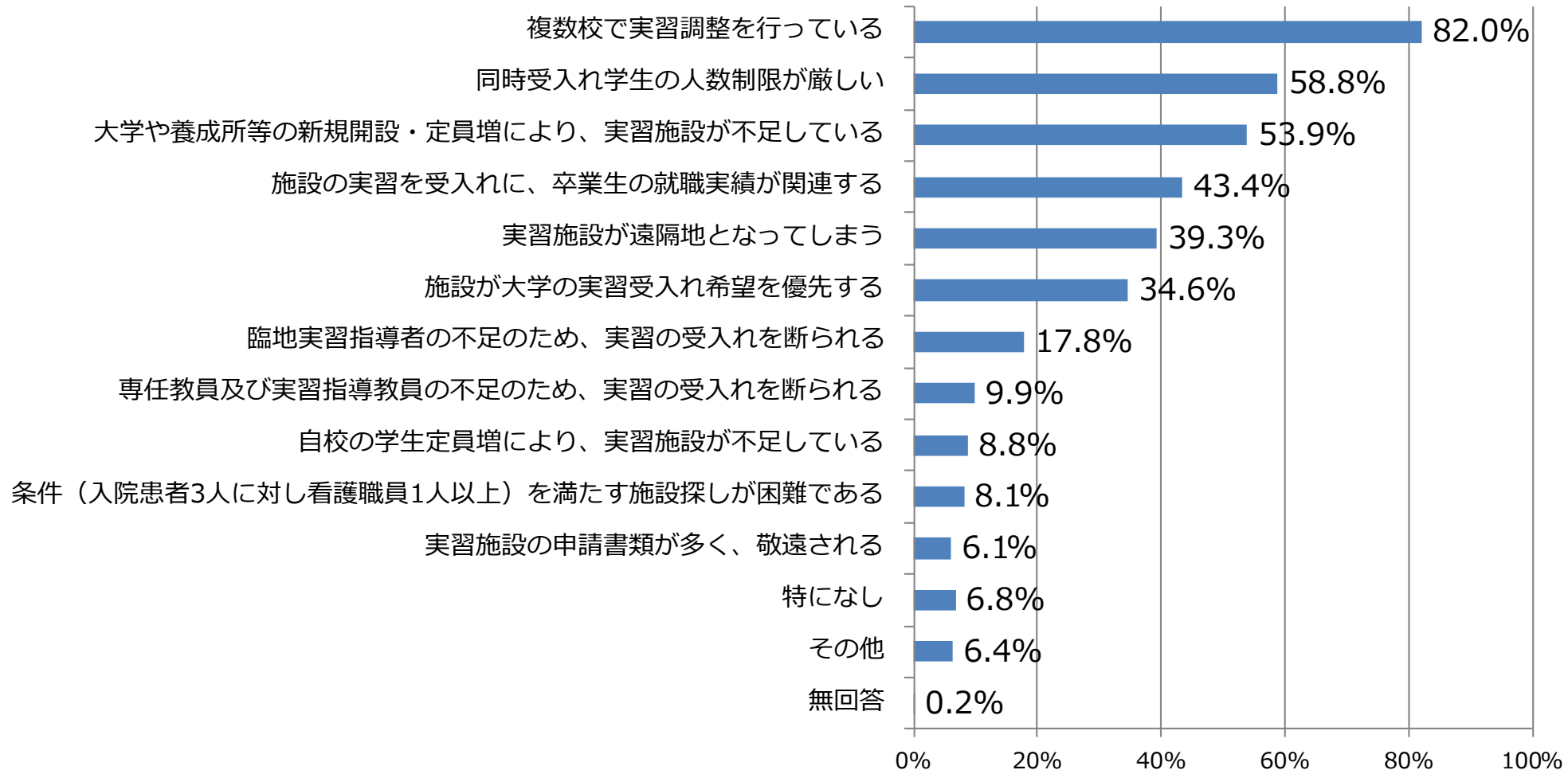
- ・入学時から卒業時の到達目標を明確に示すことができ、自己の課題として在学中から取り組むことができる。
- ・実習指導で教員と臨床指導者の主観で学生に求めていたものが、指標があることで両者の調整がしやすく、学生への負荷や混乱がなくなった。

実習施設の確保に関する課題

○実習施設の確保状況について

「複数校で実習調整を行っている」「同時受入れ学生の人数制限が厳しい」「大学や養成所等の新規開設・定員増により、実習施設が不足している」が半数以上の養成所ではあった。

n=544（複数回答可）

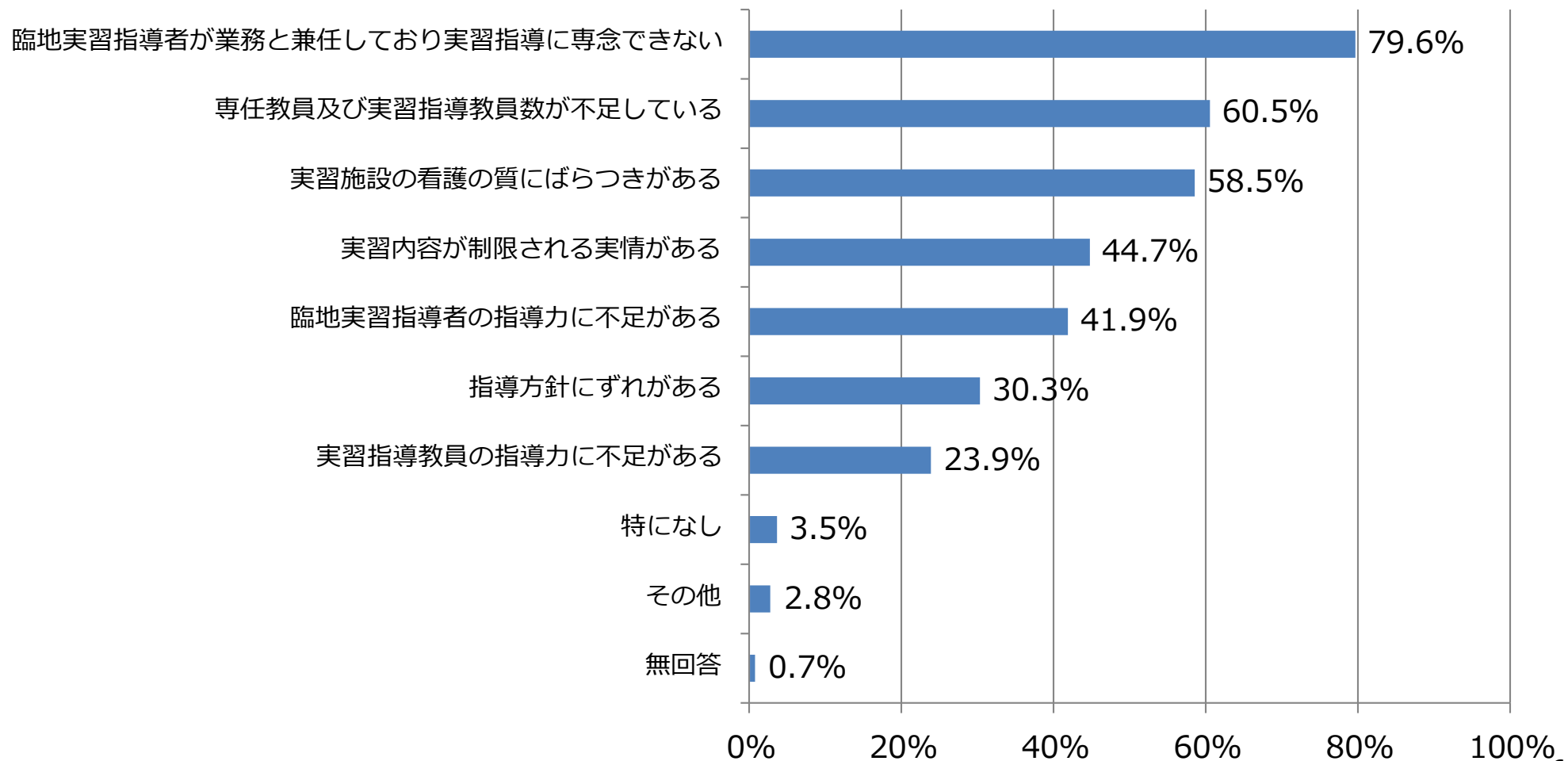


実習指導体制に関する課題

○臨地実習全般における実習指導体制について

「臨地実習指導者が業務と兼任しており実習指導に専念できない」「教員数が不足している」「実習施設の看護の質にばらつきがある」が半数以上の養成所ではまった。

n=544（複数回答可）

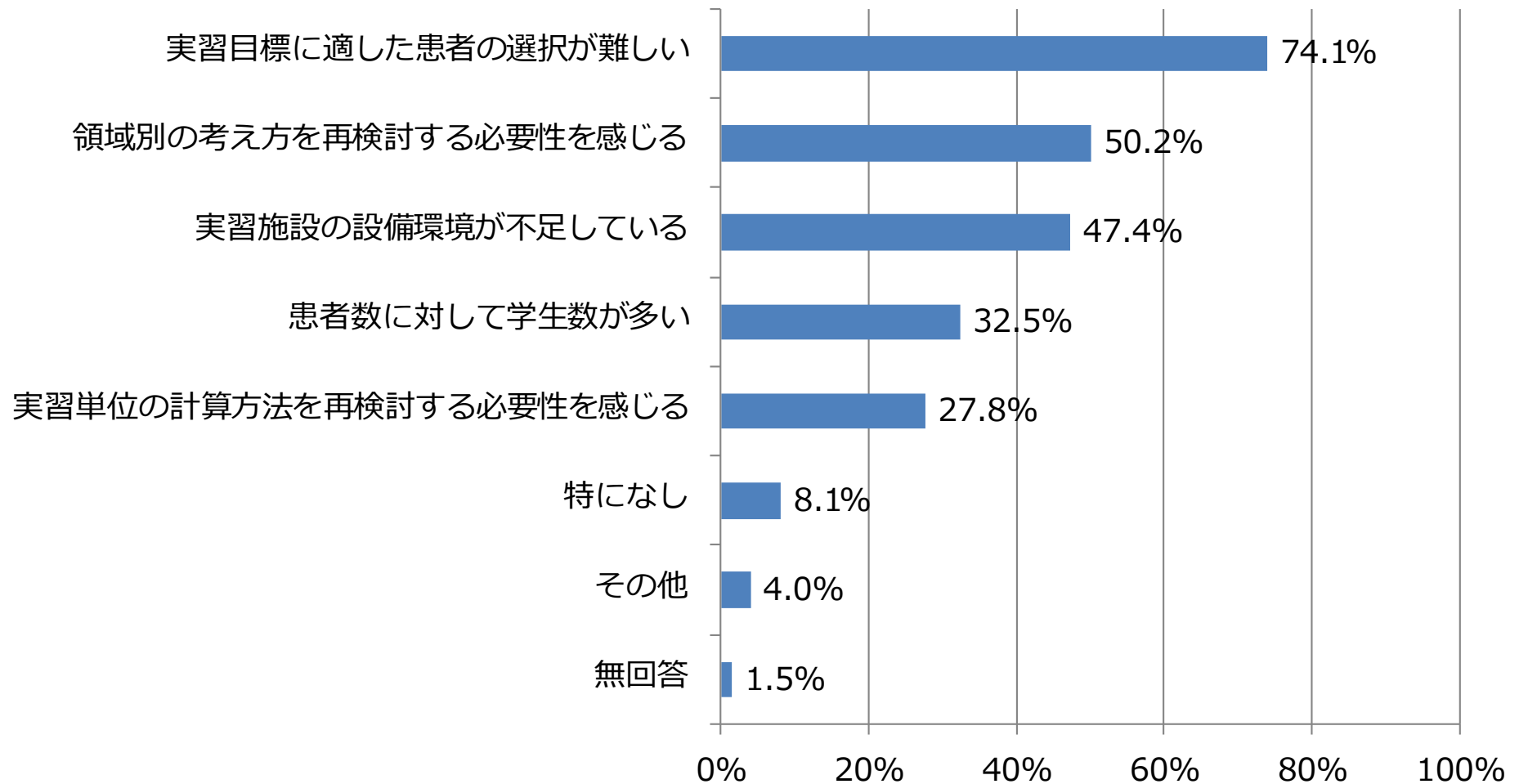


実習全般に関する課題

○臨地実習全般におけるその他の課題について

「実習目標に適した患者の選択が難しい」「領域別の考え方を再検討する必要性を感じる」が半数以上の養成所であてはまった。

n=544 (複数回答可)

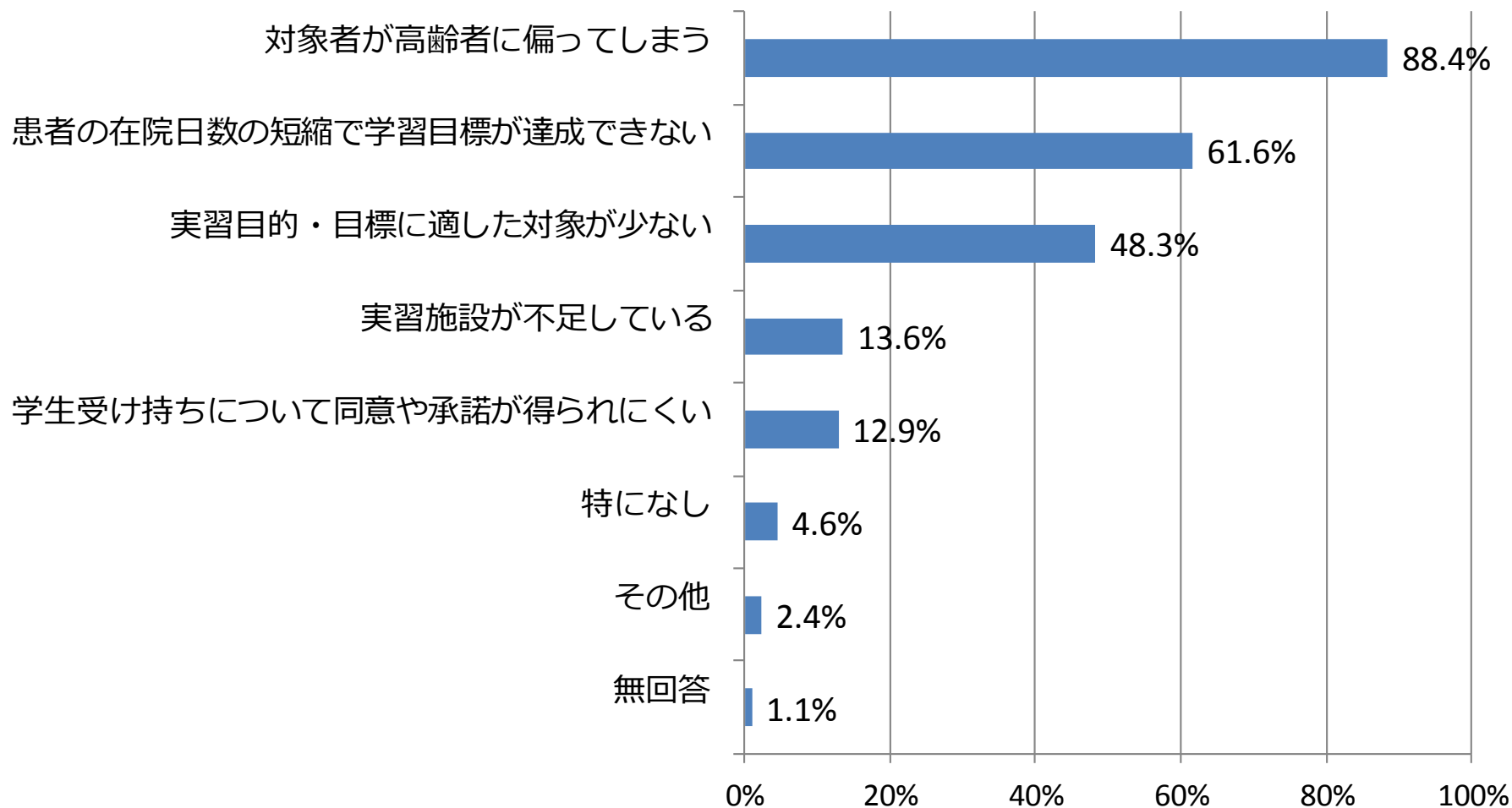


領域別の実習に関する課題

○成人看護学実習の状況について

「対象者が高齢者に偏ってしまう」、「患者の在院日数の短縮で学習目標が達成できない」が半数以上の養成所ではまった。

n=544（複数回答可）



実習施設が不足している領域

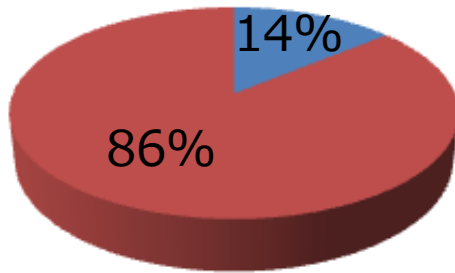
○領域別の実習施設確保の状況

「実習施設が不足している」にあてはまる養成所が多かった領域は、小児看護学および母性看護学であった。

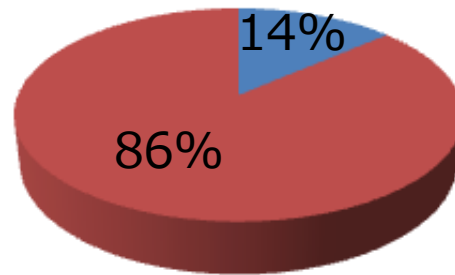
各n=544

■ あてはまる
■ あてはまらない

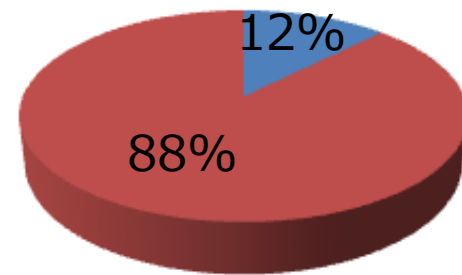
基礎看護学



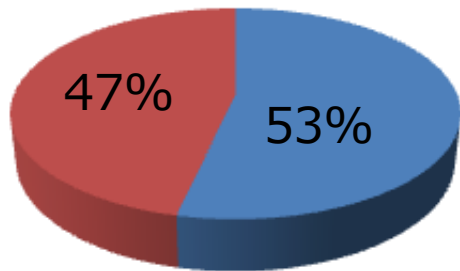
成人看護学



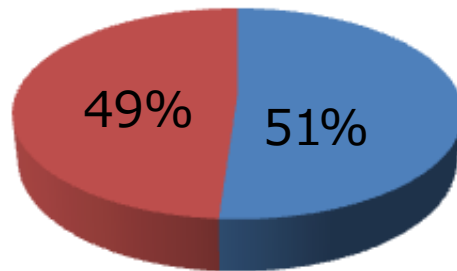
老年看護学



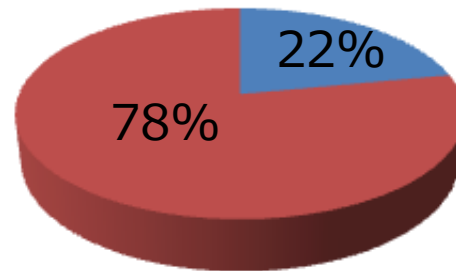
小児看護学



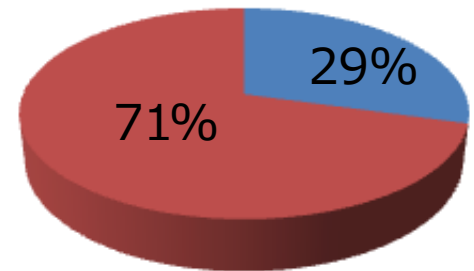
母性看護学



精神看護学



在宅看護論



調査②（教育の工夫：シミュレーション教育について）

「看護実践能力の育成に資する効果的な教育方法に関する研究」

－平成28年度 厚生労働科学研究（地域医療基盤開発推進研究事業）

－研究代表者：佐々木 幾美（日本赤十字看護大学）

○対象：全国の看護師養成所（通信制を除く）の教務に関する主任者 もしくはそれに準ずる者

○方法：無記名自記式質問紙による郵送調査

○期間：平成28年12月～平成29年1月

○調査内容：シミュレーション教育※の実態等について

※実際の臨床を模倣または再現した状況の中で、知識や技術・態度を統合して経験を通して学び、臨床判断と看護実践能力を身につけることを目的とする教育（技術の習得のみを目的にシミュレーターを使用する教育はこれには含まない）

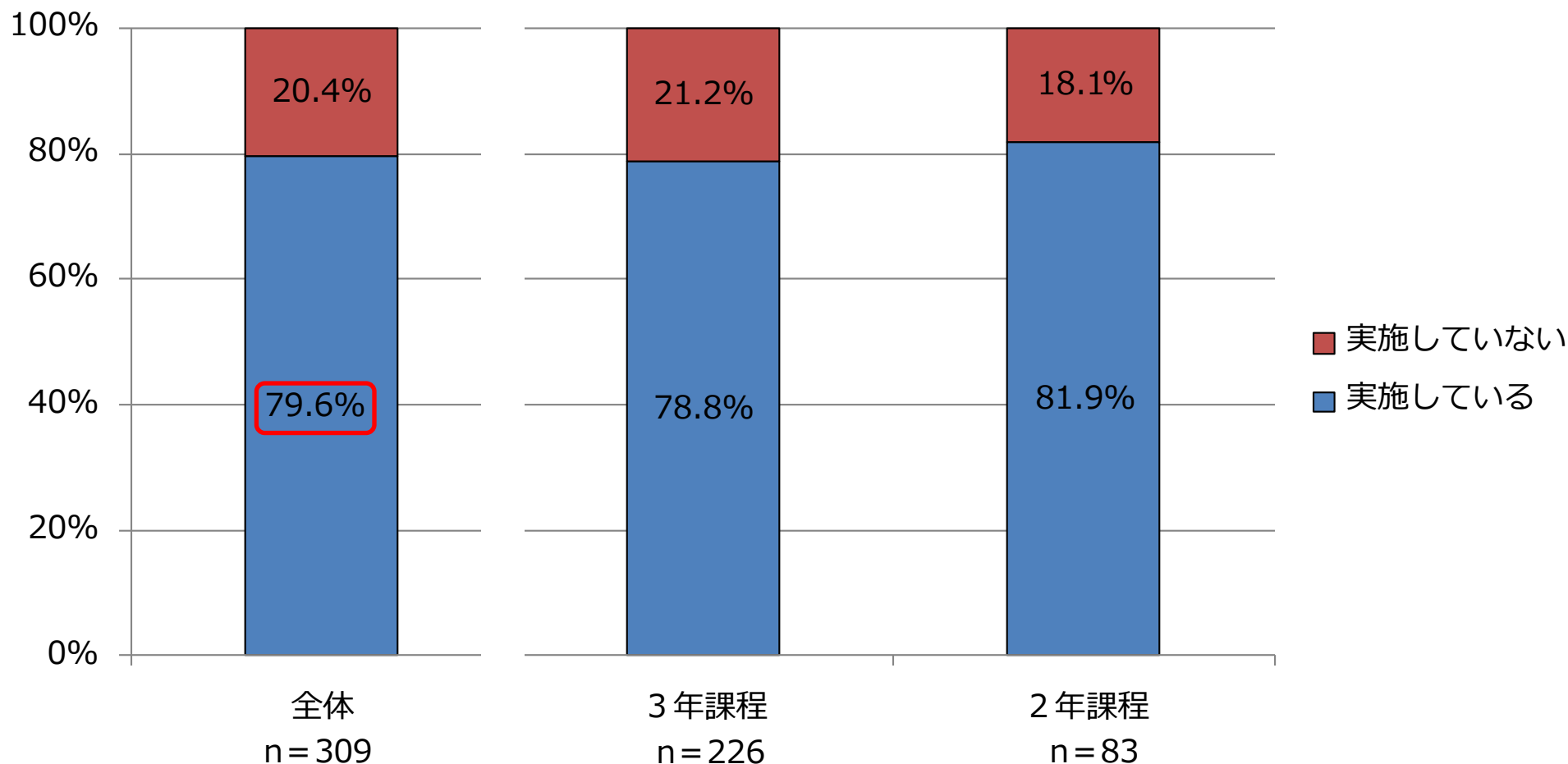
○回答状況：309課程（44.8%）より回答

課程	配布数	回収数	回収率
統合カリキュラム	11	2	18.2%
3年（全日制）	520	220	42.3%
3年（定時制）	6	4	66.7%
2年（全日制）	53	27	50.9%
2年（定時制）	99	56	56.6%
合計	689	309	44.8%

シミュレーション教育の実施状況

○シミュレーション教育実施の有無

シミュレーション教育を実施している看護師等養成所は全体の79.6%であった。



シミュレーション教育の実施状況

○シミュレーション教育を実施している科目の分野

特にシミュレーション教育を実施している割合が高かった科目は、「基礎看護学」「看護の統合と実践」であった。

